

# JPDA 1月定例理事会議事録

日 時：平成31年1月24日（木）午後1時30分～午後6時00分

場 所：文京シビックセンター(区民会議室) 5階 会議室A

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後樂園」駅前

出席者：理事24名中19名（伊藤 透、井上 聡、加藤芳夫、青木（入江）あずさ、牛島志津子、梅原 真、江藤正典、小川裕子、小川 亮、加藤（桑）和美、小原 司、鈴木智晴、竹内清高、中越 出、中森恭平、永田麻美、藤田 隆、三原美奈子、森 孝幹）

監事2名中2名（池田 毅、時田秀久）

欠席届5名（畝野裕司、高田知之、信藤洋二、八木勇達、山崎 茂）

議事録署名人： 伊藤 透、井上 聡  
時田秀久、池田 毅

## 議事の経過

定款第31条(議長)により伊藤理事長を議長に選出し、議長は直ちに本日理事会出席者21名を確認、定款第32条(決議)による出席者が過半数に達していることを確認し、定款第34条により議事録署名人が伊藤透理事長、井上聡副理事長、池田毅監事、時田秀久監事の4氏であることを確認し、議事に入る。

(決裁事項の議案号数はゴシック。)

## 第1号議案 新入会員入会審査の件

本日の理事会までに、法人1社、個人2人から入会申込みがあり、定款6条（会員資格の取得）並びに会員規定に基づき入会審査を行い、下記の入会を承認した。

### (1) 法人会員（1社）

<東日本>

1. コニカミノルタ株式会社【推薦者：伊藤 透（JPDA理事長）】

### (2) 個人会員（2人）

<東日本>

1. 豊田 章雄（とよだ あきお）【推薦者：平澤 雅子（花王株式会社）】
2. 磯部 真吾（いそべ しんご）【推薦者：江藤 晴代（株式会社ポーラ）】

## 第2号議案 休会承認の件

本日の理事会までに休会届けを提出した個人会員2人の休会を承認した。

### (1) 個人会員 (2人)

<東日本>

1. 小野 太士 (おの たいし) 【30年10月～31年9月】(会費が負担なため)
2. 白井 信之 (しらい のぶゆき) 【31年1月～31年12月】  
(協会活動への参加、貢献ができていないため、少し時間をおいて考えたい)

## 第3号議案 退会承認の件

本日の理事会までに退会届けを提出した法人会員1社、個人会員5人の退会を承認した。

### (1) 法人会員 (1社)

<西日本>

1. デンタルプロ株式会社 【30年11月末退会希望】  
(セミナー等に参加する機会が少なくなってきたため)

### (2) 個人会員 (5人)

<東日本>

1. 大久保 尚子 (おおくぼ なおこ) 【30年12月末退会希望】  
(花王株式会社を退職したため)
2. 吉田 光利 (よしだ みつとし) 【30年12月末退会希望】  
(花王株式会社を退職したため)
3. 川又 徹 (かわまた とおる) 【30年12月末退会希望】  
(花王株式会社を退職したため)
4. 川島 英芳 (かわしま ひでよし) 【30年12月末退会希望】(現在は休会)  
(株式会社吉野工業所を病気休職中のため)

<中日本>

5. 四居 俊輔 (よついで しゅんすけ) 【30年12月末退会希望】  
(高齢でデザイン業務を遂行することが困難となったため)

## 第4号議案 協会名義使用承認の件

本日の理事会までに下記2件の協会名義使用の依頼がありこれを承認した。

### (1) 後援名義使用の依頼 (1件)

1. 「第7回国際ユニヴァーサルデザイン会議2019 in バンコク」(詳細:別紙)

【2019年3月4日（月）～3月6日 バンコク モンクット王工科大学ほか】

主催：一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会

※当該デザイン会議は隔年に日本で（2017年は名古屋）で開催されており、今回が初めての海外での開催になるとのこと。

(2) 協力名義使用（継続）の依頼（1件）

1. 「ライティング・オブジェ2018」（詳細：別紙）

【2018年12月13日（木）～24日（月）

東京国際フォーラム・東京ビルTOKIAガレリア・KITTE】

主催：ライティング・オブジェ制作委員会（企業メセナ協議会助成認定活動）

※主催者の手違いで依頼書が届いたのが11/27であり、継続して協力名義の使用を承認していたため、伊藤理事長判断で11/28に承諾書を送りました。

第5号議案 正副理事長報告

伊藤理事長、井上副理事長、加藤専務理事より、現状の活動状況について以下の報告があった。

- 伊藤理事長報告
- ・ 11/20 東京デザイン会議打合せ
  - ・ 11/21 60周年展覧会打合せ
  - ・ 12/3 ASPaC決勝審査
  - ・ 12/4 ASPaCフォーラムAPD打合せ
  - ・ 12/5 ASPaC展覧会オープニング
  - ・ 12/11 APD2020・60周年デザイン会議 準備委員会（1回目）
  - ・ 12/17 協会案内リニューアル打合せ、東京デザイン会議打合せ
  - ・ 12/18 第2回創作展「感じるパッケージ」オープニングイベント
  - ・ 1/9 60周年展覧会打合せ
  - ・ 1/10 協会案内リニューアル編集打合せ、東日本委員会
  - ・ 1/11 APD2020・60周年デザイン会議 準備委員会（2回目）、  
「デザインを強くする委員会活動」打合せ
  - ・ 1/17 東京デザイン会議打合せ
  - ・ 1/25 東京デザイン会議+新年交流会（本番）に出席予定
  - ・ 1/31 日本パッケージデザイン大賞贈賞式+レセプションに  
出席予定
  - ・ 2/1 JPC審査会に出席予定
  - ・ 2/5 D-8運営会議に出席予定

- 井上副理事長報告
- ・ 11/28 APD会場視察-琵琶湖デジタルズビューロー訪問
  - ・ 11/30 西日本勉強会「車木工房見学」に参加
  - ・ 12/10 APD2020・60周年デザイン会議 準備委員会（1回目）
  - ・ 1/11 APD2020・60周年デザイン会議 準備委員会（2回目）  
「デザインを強くする委員会活動」打合せ
  - ・ 1/15 ASPaC大阪展オープニング
  - ・ 1/25 東京デザイン会議+新年交流会（本番）に出席予定
  - ・ 1/31 日本パッケージデザイン大賞贈賞式+レセプションに  
出席予定

- 加藤専務理事報告
- ・ 11/21 60周年展覧会打合せ
  - ・ 12/3 ASPaC決勝審査
  - ・ 12/4 ASPaCフォーラムAPD打合せ
  - ・ 12/5 ASPaC展覧会オープニング
  - ・ 12/11 APD2020・60周年デザイン会議 準備委員会（1回目）
  - ・ 12/12 JPDAパッケージデザインスクール打ち合わせ
  - ・ 12/14 美味しい東北パッケージ展 フォーラム、表彰式
  - ・ 12/17 協会案内リニューアル打合せ
  - ・ 12/20 第2回創作展「感じるパッケージ」会場担当
  - ・ 1/8 印刷産業連合会 新年交歓会
  - ・ 1/9 包装界合同新年会、60周年展覧会打合せ
  - ・ 1/10 協会案内リニューアル編集打合せ
  - ・ 1/11 APD2020・60周年デザイン会議 準備委員会（2回目）、  
「デザインを強くする委員会」打合せ
  - ・ 1/15 JPDA広報誌 取材（事務局）、協会案内英訳打合せ
  - ・ 1/18 JIDAデザインミュージアムセレクション「選定証授与式」、  
「デザインフォーラム」、「選定記念パーティー」に出席
  - ・ 1/21 韓国大学生にレクチャー
  - ・ 1/25 東京デザイン会議+新年交流会（本番）に出席予定
  - ・ 1/31 日本パッケージデザイン大賞贈賞式+レセプションに  
出席予定
  - ・ 2/1 JPC審査会に出席予定

第6号議案 2019（平成31）年度予算立案の経過報告

（事務局、インターネット委員会、アーカイブ委員会）

<冒頭に渡邊事務局長より、2019年度予算については、今回は資料に基づく経過報告とし、次回3月の理事会で提案していきたいとの説明があった。>

- ・本日報告する2019年度予算立案のポイントは以下の通り。
  - (1) 収益面では、今年度入会数が退会数を下回っているため、受取入会金と受取会費が前年度を下回る予算に設定していること。
  - (2) 経常費用面では、2020年の60周年に向けての発信力強化を、2019年度から準備させたいことから、インターネット関連費用（ホームページの刷新等）を2019年度予算に盛り込み、60周年積立金から充当させたいこと。
  - (3) 管理費（主に人件費）の減少分を、\*APD代表者会議やアーカイブ委員会で備蓄している過去の日本パッケージ大賞上位入賞作品の展覧会開催に振り向けたいこと。  
\*APD代表者会議: 60周年となる2020年に関西で開催予定のアジアパッケージデザイン会議+JPDA60周年デザイン会議の事前打ち合わせとしてアジアの参加国から代表者が現地に集い、事前の打ち合わせを行う会議

(4) 公益事業比率50%以上と公益事業における収支相償を死守すること。 ・

- ・現時点での2019年度予算は経常収益71,145,000円、経常費用70,585,130円で経常増減額は+559,870円。経常外増減額はインターネット委員会の積立金取崩しが200万円あることから-2,500,000円。それらを合わせた一般正味財産増減額は-1,940,130円となるが、1・2月の実績を踏まえて必要であれば、3月提案までに再度見直しを考えたい。

（予算の詳細は議案書P. 29～32を参照）

<次にインターネット委員会の中越担当理事から、予算について以下の説明があった。>

- ・現在のJPDAのサイト（ホームページ）は2013年にリニューアルしたものであるが、その後今日までにスマホの普及やセキュリティー強化等の環境変化があり、それらの変化に対応し、2020年の60周年までに情報発信がスムーズにできるように再度リニューアルを進めていきたい。

因みに、マイワークス（会員の紹介ページ）のリニューアルは2018年度からスタートしており、2019年度に完成させる予定である。

- ・ポイントは情報構造の見直し、スマホを意識した情報アクセス性の改良、セキュリティーの向上をベースに、協会内での入力・公開の効率化を視野に入れて行くように考えている。
- ・議案書P. 35の予算案では、制作費280万のうちの200万円を積立金からの取崩しとしてお願いしたい。

<次にアーカイブ委員会の青木（入江）担当理事から以下の説明があった>

- ・アーカイブ委員会としては2019年度に特にセミナーや展覧会は考えていなかったが、12月中旬に渡邊事務局長から、2019年12月はアスパックがグッドデザイン丸の内での展覧会をしないようなので、アーカイブ委員会として検討してはどうかとのサジェスチョンをいただいた。良い機会なので、小川裕子理事から聞いた過去のアスパック費用の実績をベースにした予算案（議案書P.36）を提出した。
- ・残念ながら、最終的にアスパックは今まで通り12月に展覧会を考えるとのことであるが、アーカイブ委員会としては改めて別の場所でも検討していきたい。  
但し、場所によって予算案が異なってくることも考えられる。
- ・加藤専務理事から「60周年の積立金から捻出するのならば、「プレ60周年」のようなタイトルをつけてはどうか」との意見があったが、渡邊事務局長から「この展覧会は60周年の積立金を使うのではなくて通常の予算内で考えており、『平成とJPDA大賞』のようなテーマ案がある。」との補足があった。
- ・時田監事から「D-8との連携も考えてはどうか」という発言があったが、アーカイブ委員会としてはそこまでは考えていないとのこと。
- ・小川裕子理事からは12月のアスパックの展覧会が決定事項だとしても、グッドデザイン丸の内は契約上の問題で2020年以降なくなる可能性もあるので、アスパックの後にでも開催を検討してはどうかというアドバイスがあった。

第7号議案 委員会報告（●は資料あり）

<承認事項>（4件）

●教育（10月のワークショップの結果報告と収支報告）

- ・永田理事より、資料に基づいて、10/29～30に開催された「第44回パッケージデザインセミナー&ワークショップ」の報告と、公益会計の収支計算書についての報告があった。
- ・今回のイベントは異分野の著名な広告クリエイター2名を講師に迎え、「パッケージデザインの未来を考えてみる」と題したセミナー&ワークショップであった。  
期間中は交代で伊藤理事長、井上副理事長、加藤専務理事にも参加いただき、参加者は20名と見込みより少なかったが、ほとんどが大企業からの参加者であり（内6名は非会員といつもより会員以外の参加が多かった）、お二人の卓越したアイデアと発想法、解りやすいコメントが参加者から高評価を得ていたとのこと。加藤専務理事からもプレゼン内容等大変勉強になったとの補足があった。
- ・収支報告では、  
公益会計：収入 430,000円、協会補助 0円、支出 381,587円、収支差額 +48,413円

を承認した。

### ●西日本（11月の工房見学会の結果報告と収支報告）

- ・三原理事より、資料に基づいて、11/30に開催された西日本勉強会 ここんVo1.3「秋の芸術遠足 奈良の車木工房探訪」の報告と、公益会計の収支計算書についての報告があった。
- ・参加者は平日の昼間ということもあって、26名と予定より少なかったが、石版印刷やエッチングのデモンストレーションなど、未だ職人堅気が生きている工房の見学は充実感溢れるものであった。
- ・収支報告では、  
公益会計：収入 124,800円、協会補助 62,500円、支出 177,367円、収支差額 +9,933、  
を承認した。

※理事会終了後、上記費用の中に交流会費用（法人会計）も含まれていたことが判明したため、3月の理事会で再度収支報告を行います。

### ●展覧会（12月の東京での創作展の結果報告と京都開催+東京開催の収支報告）

- ・牛島理事より、資料に基づいて、12/18～30に東京渋谷ヒカリエで開催された「言葉はなくても伝わる 感じるパッケージデザイン展」についての活動報告があった。
- ・期間中の来場者は、2016年の前回よりやや少ない5,915名（1日平均455名）だったが、海外からの来場者も多く見受けられた。  
初日のオープニングイベントでは暗闇のソーシャルエンターテインメント「ダイヤログ・イン・ザ・ダーク」のお二人をお招きし、視覚以外の様々な感覚でコミュニケーションする楽しさと豊かさを語っていただいた。会場は満員の盛況でお話しの後の質疑応答でも活発な質問が出ていた。
- ・続いて小川裕子理事からの、10月の京都での展覧会を含めた公益・法人会計の収支報告では、  
公益会計：収入 2,222,000円、協会補助 790,000円、支出 2,821,294円、  
収支差額 +190,706円  
法人会計：収入 264,000円、協会補助 0円、支出 222,200円、収支差額 +41,800円  
を承認した。
- ・収支差額が+19万になったのは、会場の展示台等をヒカリエからお借りすることができたことと、展示用のディスプレイ（多数の白い箱）を五條製紙様からご提供いただいたこと等、多くの会員様からご援助いただいたことにより、会場設営費がかなり内輪に収まったことによるとのこと。

## ●中日本（10月の富山デザインフェア、12月のTalk Caféの結果報告と収支報告）

- ・欠席の畝野理事に代わり、渡邊事務局長から資料に基づいて、9/28～30に開催された「富山デザインフェア」と、12/7に行われた「JPDA Talk cafe 2018 in 金沢」についての活動報告と収支報告があった。

- ・「富山デザインフェア」では、期間中学生のパッケージデザインコンペティション作品展と、若手デザイナーの育成を目的としたデザインスクールを開催した。

その収支については

公益会計：収入 100,000円、協会補助 30,000円、支出 106,541円、

収支差額：+23,459円を承認した。

- ・また、平成25年度からスタートし今回6回目を迎える「JPDA Talk cafe 2018 in 金沢」では、金沢美術工芸大学に、現在日本で最も注目されているグラフィックデザイナーの一人である下浜臨太郎氏を招いて、たくさんの事例をもとに新たな取り組みや先進的なプロジェクト等を時系列に学生にもわかりやすく説明していただいた。（参加者は学生48名を含む50名）

その収支については

公益会計：収入 3,500円、協会補助 55,000円、支出 37,786円、

収支差額：+17,214円を承認した。

### <報告事項>

#### ●国内交流委員会+東日本委員会

- ・桑理事から口頭で翌日の1/25（金）に開催される東京デザイン会議+新年交流会についての最終案内があった。今回は国内交流と東日本の二つの委員会が密接な連携をとりながら企画を詰めていったとのこと。

国内交流委員会が担当するデザイン会議は14:30から東洋インキの大会議室で開催されるが、鈴木理事から166名の参加者が予定されているとの報告があった。また、引き続き東日本委員会が担当し、銀座のレストラン「GINTO」で18:00から開催される新年交流会について、竹内理事より会場へのアクセス・全体のスケジュール・内容等についての案内があった。

#### ●コンペティション委員会

- ・小原理事より、資料に基づいて1/31（木）に行われるJPDA大賞贈賞式の最終案内と入賞・入選者から希望が多い「大賞ロゴマーク」の活用法についての案内があった。大賞ロゴマークの使用については、入賞者に対し贈賞式でも案内したいとのこと。

#### ●デザイン保護委員会

- ・欠席の高田理事に代わり渡邊事務局長より資料に基づいて、2/7（金）にDIC会議室で開

催予定の実践講座「事例で学ぶ、ストック素材利用の落とし穴」についての案内があった。すでに63名の申込み（1/24時点）を受けているとのこと。

#### ●アーカイブ委員会

- ・青木（入江）理事より資料に基づいて、2/18（火）開催予定のセミナー「二つの卓上瓶と日本的デザイン」についての案内があった。

また、1/25（金）～2/10（日）の間、六本木のJIDAデザインミュージアム in AXISで開催されるD-8の研究発表会「戦後日本のデザインは、どのように成立しどこに向かうのか」についての案内があった。今回はD-8所属の各協会が協力して組み上げた発表会でもあり、お時間の許す方は是非お越しいただきたいとのこと。

#### ●西日本委員会

- ・井上副理事長より、資料に基づき2020年11月に開催予定の「APD（アジアパッケージデザイン会議）2020+JPDA60周年デザイン会議」の進捗状況についての報告があった。
- ・開催場所は奈良と琵琶湖の2カ所で検討したが、1/12 2回目の準備委員会で奈良市の奈良春日野国際フォーラムに決定した。この会議場は能楽舞台の設備を備えており、APDの展覧会場も別途確保できる。
- ・日程は11月12日（木）～13日（金）で考えており、APD2020とJPDA60周年デザイン会議の二つを同時開催の予定。

- ・12日はAPD関連の展覧会会場準備・作品展示。各国の賞の審査の後、APD代表者会議と会食。

国内参加者には最低1作品を持参・展示していただくようお願いしたい。

- ・13日は二つの会議の出席者が揃って、10:00～午前中にAPD参加各国の報告、13:00～はJPDAデザイン会議の基調講演と記念イベント（大茶会等を検討）、夜は全体の交流会（カラオケ大会等を検討）を予定している。

この日も展覧会は継続し、夜の交流会で受賞者の発表を考えている。

- ・各国（韓国、上海、台湾）から3名程度＋日本より8名程度（＋タイ・インドネシアからも出席の可能性あり）の出席を予定している事前の代表者会議は、2019年11月8日（金）に現地（奈良市の会場）開催で検討している。

代表者会議では2020年の日程・プログラムの確認・シンボルマーク、テーマの検討と合わせて、いままで毎回発刊していた図録に代わるもの（ネットの活用）の提案を考えている。

- ・このイベントは、APDは国際交流委員会、デザイン会議は国内交流委員会が主体となり、西日本委員会が全体の準備・運営をサポートするという体制で進めていきたい。

2020年の詳細な内容は準備委員会で検討していく予定である。

#### ●インターネット委員会

- ・中越理事より、資料に基づき今後のサイト更新状況、イベント案内や結果報告に関するWebページ入稿の手引きについての案内があった。必要であれば説明のために委員を派遣するとのこと。

#### ●調査研究委員会

- ・中越理事より、JPDAサイトにある【情報の森】の追加更新・状況についての案内と、レンゴー東京本社において、日本包装専士会副会長 島田道雄氏を講師に招いて3/19 (火) 開催される予定の研究会「パッケージデザインとサステナビリティ」(仮)についての案内があった。2月中旬に詳細案内を行い、参加申込みを開始するとのこと。
- ・伊藤理事長より「デザイナーにとってはスピーカーの話が難しすぎる心配はないか」との質問があったが、中越理事より「技術的な話も簡潔にわかりやすくしてほしいということ伝えてあり、島田氏は話が上手な方なので大丈夫だと思う」との発言があった。
- ・加藤専務理事からは「最初に具体的なわかりやすいことを示しながら、今後の方向性を説明していただくと良くなるのではないか。また、このスピーカーは柔らかい話し方で良いと思う。」とのアドバイスがあった。

#### ●梅原理事からの提案

- ・梅原理事から今後JPDAとして検討してほしいセミナーの内容についての説明があった。

<梅原理事>

- ・グラフィックデザインとパッケージデザインは違うと思うし、デザイナー自身もそれをよく理解していないと思う。

わかりにくいことをわかりやすくすることがデザインではないのか。

- ・私見だが、JAGDAの理事長とJPDAの理事長がその違いを語るトークショーをやってほしい。これまではJAGDAとの関わりがほとんどなかったが、これからその関わりを持つていけば、これまでよりもJPDAの裾野が広がっていくのではないだろうか。
- ・今のJPDAの企画は何かフラットでヤマがなくインパクトに欠けると思っている。楽しく、面白く、人が集まり、軽快にデザインを語る場がないように思う。また、タイトルも非常に重要で、「これは何だろう？」と思わせる言葉もデザインである。
- ・提案するイベントは毎年ではなく、2～3年に一度人を呼べる大きなもの考えたい。当初2020年の関西での会議で考えたが、さきほどの説明で入れ込む余地がないので、別途1～2年の間にどちらかの委員会で検討していただきたいと思う。

JAGDAの佐藤理事長との調整も自分で進めていってもよい。

(以下他の理事の発言)

<伊藤理事長>

- ・大変面白い提案だと思う。桑沢のような学校でもよいのではないか。しかし、実現するのであれば、やはり梅原さんが全体をリードしてほしいと思う。

<加藤専務理事>

- ・5月の総会ときに考えてはどうか。⇒梅原理事は、総会は出席者が限られるので、ニュートラルな場の方が良いという意見。

<小川亮理事>

- ・今JPDAの学校のことを考えているが、会員の減少している時でもあり、この提案は非常に面白い企画だと思う

<永田理事>

- ・教育委員会でも考えていきたい。

<渡邊事務局長>

- ・自分はデザイナーではないが、世間ではグラフィックデザインとパッケージデザインの違いはあまり認識されていない。公益という意味で世間一般にその違いを知らしめるといふこの企画は大変新鮮に感じるし、面白い提案だが、現実的にこれをどう実現させていくかという点では予算を含めて検討していかなければならないと思う。

<池田監事>

- ・JAGDAの佐藤氏は以前JPDAの会員だったこともあるし、梅原さんが調停役も含めて進めていった方がうまくいくのではないかと思う。

●アスパックウィーク

- ・森理事より、資料に基づき2018年12月上旬のアスパックウィークとその後の展覧会についての以下の活動報告があった。
- ・昨年と比べて、参加国、応募数も増えているが、今回残念ながら、日本からの応募作品はJPDA賞のみで大賞・金・銀・銅の入賞はなかった。また、東京グッドデザイン丸の内での展覧会入場者は、前回より開催期間が伸びたこともあり、5,000名を越えて大盛況だった。

内容面では、今回は企業研修を減らし、各国学生からの作品プレゼンテーションや国別のワークショップを加えたことが前回との違いである。

- ・小川裕子理事から、「日本以外の国の作品は入選であってもかなりレベルが高かった。日本の学生も頑張ってもらいたい」との発言があったが、加藤専務理事から、「日本以外の国の学生は日本に招聘されるということや賞金面で、日本の学生よりもモチベーションが高いと思う」というコメントがあった。
- ・加藤専務理事からは、フォーラムで各国の審査員紹介をきちんとやってほしいとの要望があった。

第8号議案 事務局報告

- ・渡邊事務局長より資料に基づき以下の報告があった。

### 1. 会員異動状況について

- ・すでに理事会で入会を承認いただいている木村薫氏はご本人の都合で入会取り消しとなった。
- ・西日本個人会員の横田洋一氏は1年以上会費未納が続いていたので退会扱いとした。

### 2. 2018（平成30）年度の予算外費用について

- ・事務局員の退社に伴い今年度の管理費（とくに人件費関連）が内輪に収まることから、その分をコンペ贈賞式のパナー制作や協会案内リニューアル等の費用に振り向けることとした。

### 3. その他報告事項

- ・2018年10～12月開催した現代日本のパッケージ展は期間中の来場者が7,395名であり、1日の来場者数は過去最高であった。（出版委員会の活動報告参照）
- ・会員名簿と年賀状は提案通り1月4日に発送を完了した。
- ・事務局PCデータを完全にバックアップしていくため、新しいサーバーをリース契約した。（保守費用も含めて年間24万円の費用増）
- ・事務局地下倉庫が手狭になったため、現在借りているところより少し狭いスペースを借り増した。（年間14.4万円の費用増）
- ・2019年1月より郵便局の500g以内の特約ゆうメール料金が約15%値上げされるので、注意してほしい。

## 第9号議案 「デザインを強くする委員会活動」 part III（総務委員会）

- ・井上副理事長から、前回までの2回のワークショップのまとめ報告のあと、以下の提案があった。

（過去2回：第1回「みんなに知ってほしい委員会活動」、第2回：「将来のJPDAを考える」のまとめは資料参照）

#### <井上副理事長の提案>

- ・いままでの議論から、「JPDAが優先して取り組むべきこと」、「そのために必要なことは何か・・・」を考えると、『パッケージデザインの価値を定義する』ことを最上位の概念として、そのために優先して取り組むべき以下の4つの目的に分けて、関連する委員会活動を、未来に向けてより価値を生むものに発展させる可能性について、各委員会が一緒になって取り組めることがあるのか、またそれは実現可能なのか等について、これから4グループに分かれてディスカッションしていただきたい。

- ① 『社会を啓発し社会から学ぶ』⇒調査研究・アーカイブ・デザイン保護
- ② 『デザイン力を研く』⇒教育・展覧会（創作展）・コンペティション
- ③ 『価値観を共有する・仲間を集め交流する』

⇒国内交流、国際交流、東日本・西日本・中日本

④ 『メディアデザインで一緒に創る』⇒広報、インターネット、出版、総務

<以下は各グループからの発表>

① 『社会を啓発し社会から学ぶ』⇒調査研究・アーカイブ・デザイン保護

・一緒に何かできるかを考えたが、JPDAを大きくソーシャルチームとクリエイティブチームに分けてはどうかという意見が出た。ソーシャルチームは調査研究、アーカイブ、デザイン保護等、クリエイティブチームはコンペ、教育等の委員会が該当し、その全体をたばねるものとして国際交流、国内交流を位置づける。

現状ではソーシャルチームの発信力が弱いと思われるので、これからは外部に対しどんどん発信していく必要がある。

また、そのソーシャルとクリエイティブのコラボで展覧会をしてはどうかという意見も出た。

② 『デザイン力を研く』⇒教育・展覧会（創作展）・コンペティション

・セミナーが乱立する現状で、参加費の安いしょぼいものは止める検討が必要ではないか。それはJPDAの価値を上げるのではなくむしろ下げているのではないだろうか……。いろいろなセミナーを一定のレベルのセミナーにしていく。また、それを一括して企画していくことが求められていると思う。

例えば、現状の展覧会は参加者の交流とデザイン力を研くのが目的だが、交流のウエートが高いように見える。これからはよりデザイン力を高める方向で考えていくことが必要ではないか。また、コンペは書籍との関係が曖昧。外部への発信はJPDAの価値を高めるためには必要だが、Webでよいと思う。それによって全体の収益性を高め、その収益を社会啓発や学生の教育等、いままでできなかったことに振り向けるべきだと考える。

③ 『価値観を共有する・仲間を集め交流する』

⇒国内交流、国際交流、東日本・西日本・中日本

・国内交流、東日本は今年1月のデザイン会議で、また西日本と国際交流、国内交流は2020年のAPDを通して徐々に統合されつつある。

また、東日本の問題は委員会が多くそれぞれの委員会がセミナーを企画しているので、セミナーが乱立状態になっている。一方、西は西日本だけで企画するので、負担が多いが、東とコンテンツを共有することで負担が減ると考える。例えば、東西がTV中継等で同じセミナーを開催したり、その案内も一つのデザインにまとめる等。また、東日本と西日本をまとめて交流委員会にしてはどうかという意見も出た。

④ 『メディアデザインで一緒に創る』⇒広報、インターネット、出版、総務

・メディアとコンテンツにおける、リアル（印刷物）とデジタル（web）の関係では、

JPDAの場合、まだリアルのウエートが高いと思うが、世の中の的にはデジタルのウエートが早いスピードで高まっている。その割合を8：2、あるいは7：3と考えたときにわれわれは何を考えればよいのだろうか。

やはり現状のリアル（年鑑、インデックス、広報誌、会員名簿等）を整理することによって変化がでてくるのではないかと考えた。リアルをなくすことはできないが、これからのリアルは「JAGDAとJPDAの理事長のトークバトル」のようなかなりインパクトの高いものでなければならず、それを別のリアル（小冊子等）でも紹介するといったような工夫が必要であろう。

- ・最後に伊藤理事長より、この件についてはできるところから徐々にやっていきましょうとの意見があった。

*（「デザインを強くする委員会活動」についての議論はとりあえず今回で終了し、次回3月の理事会の議題とはなりません。）*

#### 第10号議案 次回理事会開催の件

- ・伊藤理事長より次回3月の理事会について案内があった。

日時：平成31年3月13日（水）午後1時30分～6時00分※

場所：文京シビックセンター（区民会議室） 5階 会議室 C

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後樂園」駅前

※議事の進行によっては延長の可能性があります。

以 上